

横浜市インフルエンザ流行情報 10号

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

《トピックス》

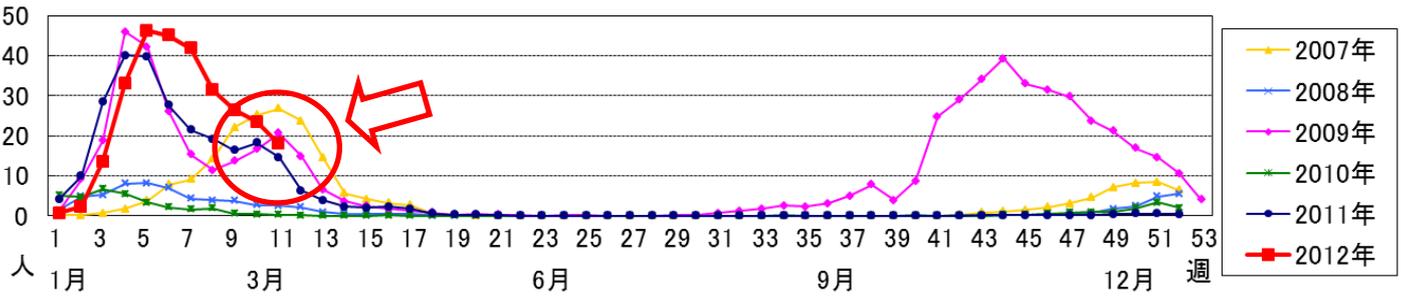
流行は減少中ですが、高い流行が継続している区もあります。

【概況】

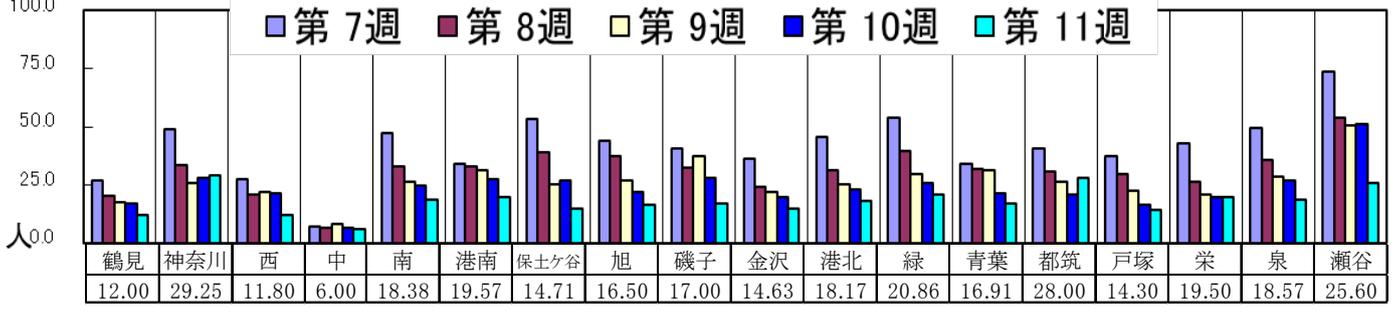
第11週(3月12日～3月18日)に定点^{※1}あたり17.98となり、減少傾向ですが、神奈川区29.25などと、区によっては高い流行が継続しているので注意が必要^{※2}です。現在の流行の主体はB型であり、A型に罹った人でも感染の恐れがあります。手洗い、うがいを心がけ、人混みを避けるようにしましょう。

※1 定点: 定点とは、受診したインフルエンザ患者数を毎週報告してくれる医療機関のことです。市内には152の定点があり、そこから報告のあった患者数を定点数で割ると、定点あたりの数になります。
 ※2 インフルエンザ予防チラシ <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/hokenjo/pdf/infulchirasi.pdf>

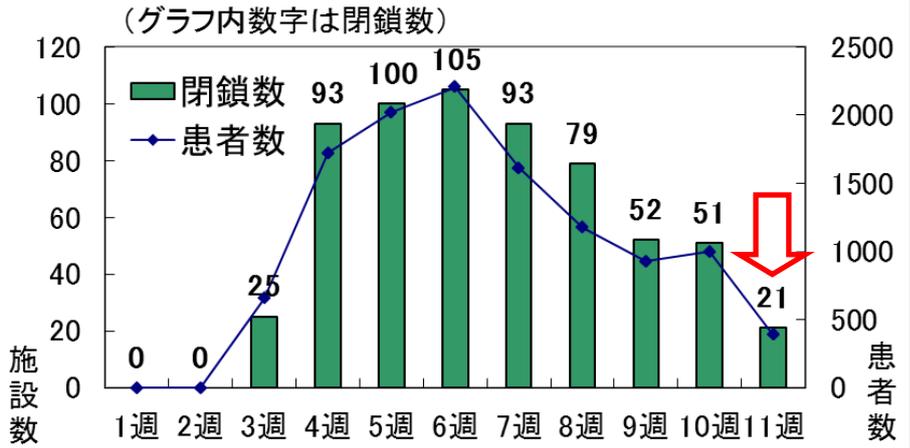
1 市内流行状況: 第11週では定点あたり17.98と、減少傾向が続いています。



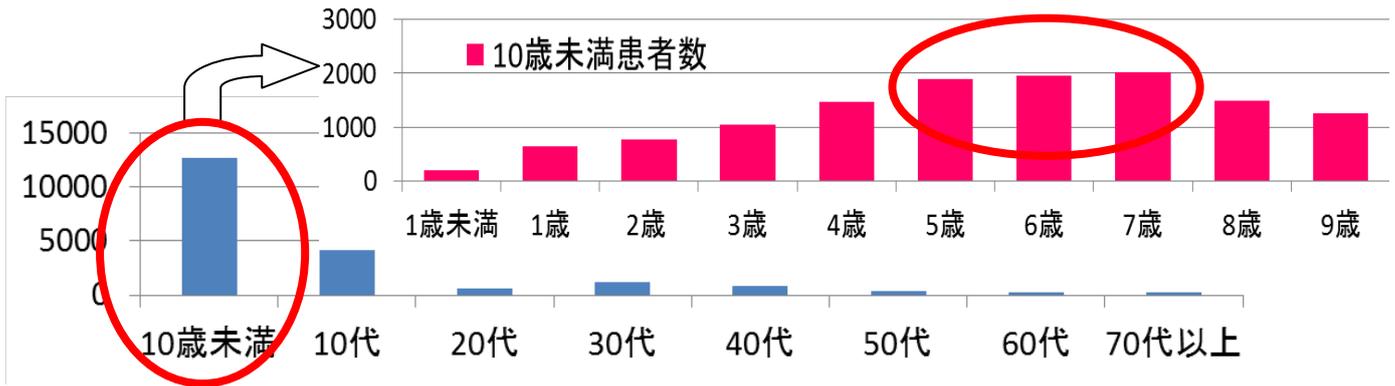
2 区別流行状況: 全体的に減少傾向ですが、神奈川区29.25などと高い流行が継続している区もあります。



3 市内学級閉鎖等状況: 第6週以降減少傾向が続いており、第11週ではさらに減少しました。第11週の施設種別では多い順に、小学校17件、幼稚園2件、保育所1件、中学校1件でした。

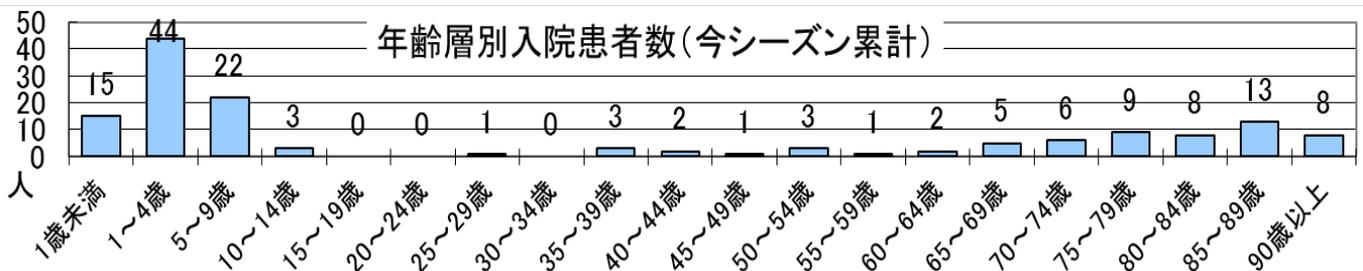


4 年齢層別集計: 第7週から第11週までの直近5週間の累計では、今までの傾向と同様に10歳未満の患者が最も多く、その内訳では5~7歳で多くなっていました。

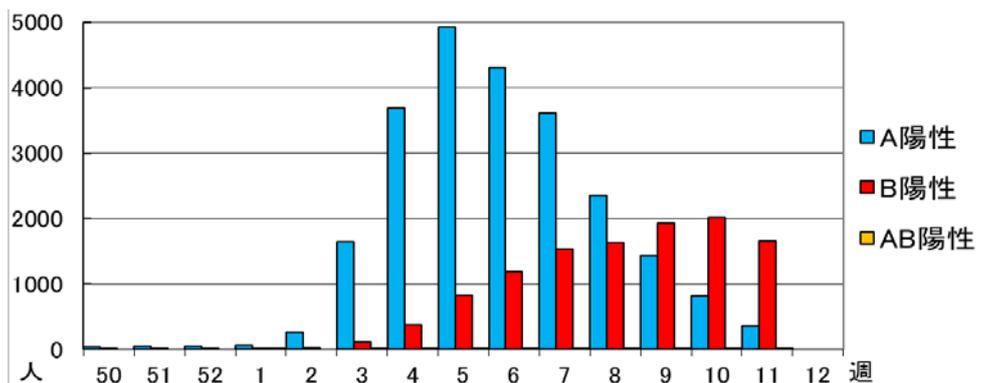


5 入院サーベランス: 市内基幹定点^{※3} 医療機関における、インフルエンザの年齢層別入院患者数の集計です。10歳未満の入院が多く、次に65歳以上となっています。

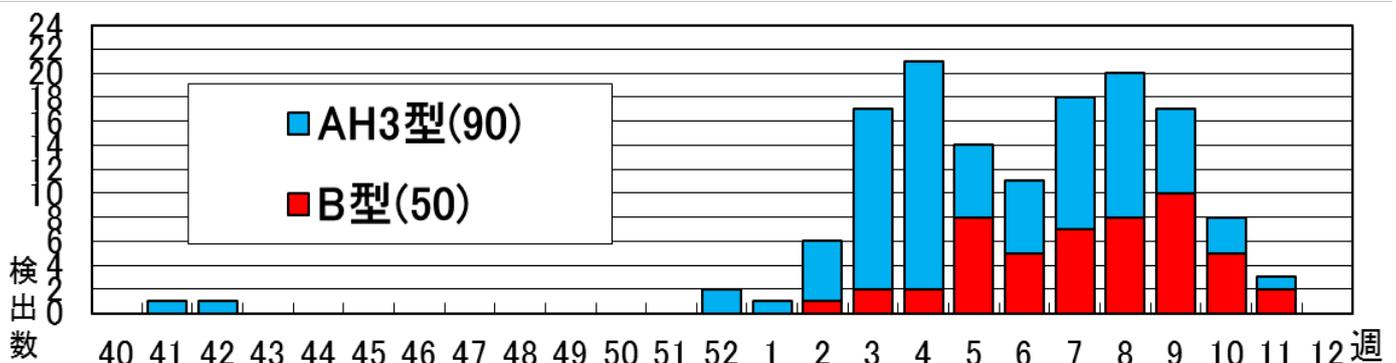
※3 基幹定点: 基幹定点とは、患者を300人以上収容する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には3つの基幹定点があります。



6 迅速キット結果: 市内患者定点医療機関における、迅速キットによる型別の報告数ではB型の割合が増加しています。迅速キットで判定された型のうち、第11週では81.9%がB型でした。



7 病原体検出状況: 市内定点医療機関から140件検出されましたが、AH3型90件(64.3%)、B型50件(35.7%)でした。



【お問い合わせ先】 横浜市健康福祉局健康安全課

横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課

同 検査研究課ウイルス担当

TEL 045 (671) 2463

TEL 045 (754) 9816

TEL 045 (754) 9804